

講義名	オ)専門基礎演習（経）			
担当教員	藤岡 千伊奈			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 1時限	授業形態	演習	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

**主題と概要**

1年次の「気づきの教育」を経て模索している「なりたい自分」の実現に向けて、自ら選択した学部・学科・コースでの2年次以降の学びに円滑に移行できるよう、専門科目を学ぶ際に求められる基礎的な能力・技能のさらなる向上を図ることを目的とする。「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、汎用的な能力・技能を育成するとともに、学部・学科の特性に応じた能力・技能の育成を図る。これらを通じて、本学の学生が卒業後に共通して身につけておくべき項目の履修・能力を身につけた人材（「スアカ」のひのびへこたれず、の精神をもった人材、知識を知識に転換することができる、論理的思考力を持った人材、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材、自主・自立の精神を持った人材、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材）となるための確かな基盤を築く。

**到達目標**

- 「考える学習型」授業や研究演習に積極的・主体的に参加し、課される課題に適切に取り組む上で求められる、文書作成、プレゼンテーション等ができるようになる。
- 学部・学科の専門分野、研究演習の研究対象分野に応じて必要とされるレベルの Word、PowerPoint、Excel 等の操作ができるようになる。
- 将来の「なりたい自分」の実現に向けて、それに即した適切な専門ゼミ（「研究演習」）を選択できるようにする。

\*このクラスは通学困難者クラスである。この科目の到達目標達成のためには対面授業が望ましいが、この通学困難者クラスについてはオンライン（Zoomライブ授業及び課題提出型）で実施する。よって、対面授業でないも実施できない項目は実施しないこと、この授業はオンデマンドではないことに留意するよう。

**提出課題**

経済学部の専門基礎演習は、第1回～第10回と第11回～第15回に区分される。第1回は、ガイダンス・ゼミ紹介等を行う。第2回～第9回では、経済学部所属教員が開講する「研究演習」（通称「ゼミ」）についての説明を各教員のシラバス等をよく読んで、その内容をきちんと理解したうえでゼミ選択できるようにする。第10回は、研究演習、第1次募集申込書提出状況を確認し、ゼミ選択の交流をおこなう。第1回～第10回では、毎回ワークシートの課題が課される。第11回～第15回は、クラス別に能力・技能の向上と育成のための演習を行う。提出課題は担当教員により異なる。詳しくは演習時に説明する。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

第1回～第10回のワークシートについては、講義連絡を通じてフィードバックを行う。第11回～第15回の提出課題に対するフィードバックは講義連絡及びオンラインライブ授業内で行う。

**評価の基準**

第1回～第10回のワークシート 60%、第11回～第15回の課題 40%の割合で評価する。

**履修にあたっての注意・助言他**

\*この科目の到達目標達成のために、毎回出席し、課題を提出すること。  
\*Ryuka Portalの講義連絡やメール等をこまめに確認し、指示に役立つこと。

教科書	.使用しない。				

**プリント資料及び参考文献**

資料は、必要に応じて事前にRyuka Portalの講義連絡で配信する。その場合、ダウンロードし、印刷するなど、演習に向けて準備すること。  
参考文献は、必要に応じて随時紹介する。

**授業計画**

1. 専門基礎演習の運営方針説明、自己紹介等（担当者によるZoomでライブ授業）
2. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
3. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
4. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
5. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
6. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
7. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
8. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
9. 指定された研究演習の説明を受け、ワークシートを作成する
10. 研究演習、第1次募集申込書提出状況の確認、ゼミ選択の交流（担当者によるZoomでライブ授業）
11. 担当者によるZoomでライブ授業
12. 担当者によるZoomでライブ授業
13. 担当者によるZoomでライブ授業
14. 担当者によるZoomでライブ授業
15. 担当者によるZoomでライブ授業

\*このオンライン授業は、Zoomでのライブ授業と課題提出型授業の併用となる。

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

研究演習の説明を受けるにあたっては、事前にそれぞれのシラバスを熟読し、予備知識を備えておくこと。毎回の課題に取り組み、学習内容を身に付けること。担当教員の指示にしたがって必要な予習を行うこと。以上をつづけて、1回の演習につき4時間程度の事前・事後学習が必要となる（研究演習、第1次募集申込書の作成の時間なども含む）。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

この科目は学部共通科目の特別研究に位置づけられており、そのカリキュラム・ポリシーのうち、「専門科目で修得した知識を基に、より専門性の高い内容を少人数クラスで学ぶ科目」の土台づくりを行う。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

演習形式の授業である。学生はワークシートや課題を提出し、教員がそれについて講義連絡やZoomによるライブ授業内でコメントする。また、学生の発表や学生間の議論をライブ授業で実施する。

**実務経験の有無及び活用**

なし。

**備考**

Zoomは、PCで参加が望ましいが、スマホでも参加できる。カメラオンで出席すること。